

第24期日本学術会議 第5回環境学委員会

議事録

日時:令和2年2月13日(木) 14:00~16:00

場所:日本学術会議5階 5-C(1)会議室

出席者:石川義孝、岡田真美子、西條辰義、高村ゆかり、石塚真由美、古谷研、浅見真理、阿尻雅文、田辺新一、中村尚、春山成子、大政謙次、花木啓祐、福士謙介、鷺谷いつみ(名簿順)

欠席者:秋葉澄伯、武内和彦、丹下健、南條正巳、磯部雅彦、高橋桂子、石川幹子、蟹江憲史、横張真、渡辺知保(名簿順)

議事

1. 各分科会からの活動状況

・環境科学分科会、都市と自然と環境分科会、長寿・低炭素化分科会、フューチャー・デザイン分科会、FE・WCRP分科会、自然環境保全再生分科会、環境リスク分科会、環境思想・環境教育分科会、環境政策・環境計画分科会から、活動状況の報告があった。
・長寿・低炭素化分科会が作成中の提言案が詳しく紹介され、意見交換が行われた。修正後、査読にかけることが承認された。

2. 環境学委員会からの提言案について

・高村委員長から、環境学委員会からの提言案について、2014年に出た「環境学の俯瞰」以降の環境問題と環境学の展開を踏まえて、今後の課題をとりまとめるというのはいかがか、との提案があった。具体的には、①「環境学の俯瞰」で提示された枠組みについて、修正、変更、追加が必要と考えられる点はあるか、ここに記載されていない事項で、記載が必要な事項はあるか、②日本が優先的に取り組むべき環境問題・課題は何か、特筆すべき環境学の新たな展開と優先的に取り組むべき研究課題は何か、その他に盛り込むべき点はあるか、といった視座から検討を進めたい、との発言があった。
・以上の方向に関し、意見交換が行われた。その結果、提言よりは報告あるいは記録のほうがふさわしいのではないか、フューチャー・アースが2014年に始まり、SDGはその後に始まったので、この点を念頭に置いたほうがいい、上記の俯瞰で言及されていないもので、例えば人材育成の必要性を述べたらいかがか、「環境」を冠した学部、学科が増えていくがカリキュラムのリスト化が必要ではないか、技術的な内容を主眼する効率的な

Efficiency から満足度 (Sufficiency) に価値観が移ってきていることを踏まえると良いのではないかなどの意見が出された。

・次回の環境学委員会までに分科会ごとに論点のメモを集め、今後の具体的な議論を進めることとなった。

3. その他

次回の委員会の開催日は、4月の総会開催期間を中心に、検討する。